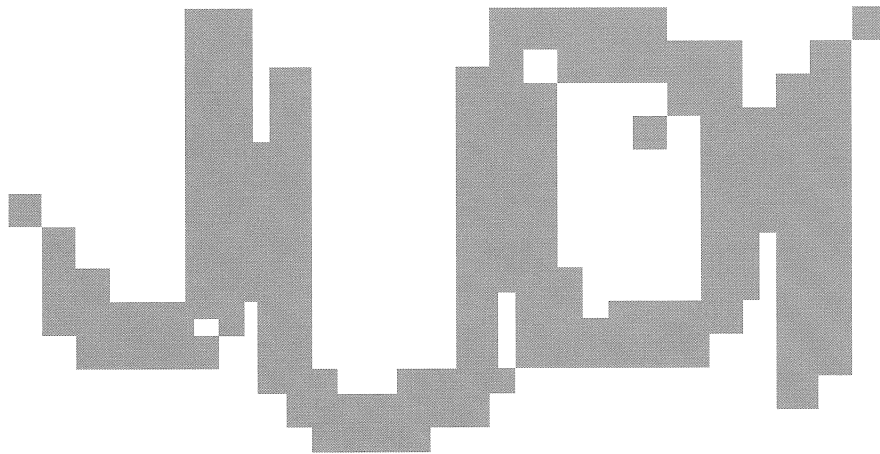


JUDI都市環境デザイン会議 モニターメッセ**2010**

都市環境を形成する施設のパブリックデザイン in 東京



2010年**7**月**17**日（土）

芝浦工業大学 豊洲キャンパス

JUDI都市環境デザイン会議

モニターメッセ2010

都市環境を形成する施設のパブリックデザイン

開催主旨・挨拶 事業委員会委員長 横川 昇二／横川環境デザイン事務所
司会進行 事業委員会委員 須田 武憲／GK設計

プレゼンテーション及びコメント

■ 三協立山アルミ(株) 『アルミシステム建材の開発と適用例』

発表者 : 南井英希／技術開発部
コメンテーター : 中野恒明／芝浦工業大学

■ (株)コトブキ 『都市景観を演出するアルミ鋳物を屋根材とした シェルターの可能性』

発表者 : 井上弘子／SFサイン設計室
コメンテーター : 栗原裕／ユー・プラネット

■ ヨシモトポール(株) 『街の美観を保つ表面処理技術と製品紹介』

発表者 : 田邊智哉子／経営企画室 企画チーム
コメンテーター : 斉藤浩治／パシフィックコンサルタンツ

■ 宮崎高砂工業(株) 『地域の伝統産業技術を活かした環境レング 開発について』

発表者 : 仙臺真理
コメンテーター : 中村伸之／ランドデザイン

■ カネソウ(株) 『U字溝用スリット蓋のバリエーションと応用使用例』

発表者 : 石川文和／マーチャンダイジング部
コメンテーター : 白濱カ／グラフィス環境計画

ポスターセッション

■ (株)アーテック

■ (株)ユニオン

■ (株)MARUWA SHOMEI

開催主旨

毎々、都市環境デザイン会議（JUDI）の諸活動にご協力いただき、厚く御礼申し上げます。

例年、JUDI総会時に「都市環境デザイン・モニターメッセ」を実施して参りました。過去18回の「都市環境デザイン・モニターメッセ」の中で発表された製品等も240例近くになっています。モニターメッセでは、各企業の新しいコンセプトの製品開発、技術開発事例等をJUDI会員に向けてプレゼンテーションしていただき、それに対して責任コメンテーター並びにJUDI会員からモニター意見・提案等を行うという双方向型の交流の場として位置づけてきました。この双方向性は、数年前から実施しているポストモニターメッセにより一層の充実が図られ、参加企業とともに都市環境デザイン製品を考える重要な場として機能しています。

今年度は、総会が東京での開催となり、関東ブロック主催の「学生研究発表会」、「江戸湊クルーズ」、「JUDI20周年記念事業に向けて」と題した代表幹事会の“キックオフアピール”、“自然と歴史のまちづくり中間発表”、そしてパネルディスカッション「しあわせなウォーターフロントの再生-東京湾と地場産業」と連携を図り、芝浦工業大学の豊洲キャンパスを会場に開催致しました。今回は、「都市環境を形成する施設のパブリックデザイン」をテーマとして昨年からの実施したポスターセッションと発表形式のプレゼンテーションに分けて実施しました。

昨今の経済不況下の中、公共事業の減少傾向は止まらず、都市環境デザインの専門家や事務所、関連産業を取り巻く状況はますます厳しくなっております。そのような環境下にある一方では「景観法」に続く「歴史まちづくり法」の施行、観光立国や地域再生に向けての施策も見られ、一般の人々にとっても都市環境や景観に対する関心が一層高まるような気運が盛り上がっていくことが期待されています。

また、隣国韓国や海外の都市では“パブリックデザイン”という観点から都市環境デザインやまちづくりを進めようとしており、都市環境や景観を構成している“ヒト・モノ・バ”に関する造る・守る技術や多様なデザインの可能性を検証し、デザイナーと企業が「美しい日本や魅力ある地方」に相応しい都市環境、景観を形成していくために他分野に横断するJUDIこそが真剣に取り組まなければならないと考えます。

JUDIも20周年を迎える時、モニターメッセが社会的なニーズに応えてくとともに、今回の冊子のテーマにある「都市環境を形成する施設のパブリックデザイン」を追求するとともに、“パブリックスペース”の環境や景観を魅力的かつ持続的に形成する価値観を持つ新商品や・新分野の開発における建設的で創造的な場となるよう努力しますので、皆様方のご協力を心よりお願いする次第であります。

平成22年7月17日

横川 昇二／横川環境デザイン事務所（事業委員会委員長）

企業提案

モニターメッセ

1. はじめに

(1) アルミの特性

アルミは、①軽量で高強度、②耐久性・メンテナンス性に優れる、③押し出しが可能で加工性に優れる、④リサイクルが容易で環境にやさしい、という特性を有しており、これまでも様々なシーンに用いられ、建材としてもサッシュ・カーテンウォールといった外装材で多く用いられています。

(2) 仕上げ材から構造材へ

2002年の建築基準法国土交通省告示408号、409号および410号により、アルミが構造部材として認められ、小規模建築を中心に、仕上げ材から構造部材へ徐々にその使用範囲を広げています。

2. アルミシステム建材の開発

(1) 開発テーマ

アルミの特徴である、仕上げ材との組合せを自由に選択出来る事を活かし、規格品と一線を画すシステム建材の開発に次の点を意識して取り組みました。

- アルミの軽量性と加工性の良さを活かした扱いやすい構造材
- アルミの意匠性を活かすスリムなフレームを実現する、剛接合が可能な構造材

(2) 剛接合の実施

アルミ材を接合する方法の中で、ボルト接合は非常に簡便ですが、ボルト接合を用いた場合、クリアランスが必要なため、剛接合とすることはできません。そこで、中ボルトを用いつつ、接合ボルトのクリアランスを消失させる方法を考案し、試験によりその性能を確認しました。

アルミシステム建材の開発と適用例 三協立山アルミ株式会社

◆はじめに 仕上げ材から構造材へ

- ①軽量で高強度
施工性がよく、人にやさしい
- ②耐久性高くメンテナンスフリー
ランニングコスト低減
めっき不要 環境にやさしい
- ③加工性がよく自由な断面
断面が自由で経済設計、意匠、接合の工夫が可能
- ④リサイクルしやすい
環境にやさしい

2002年 建築基準法 国土交通省告示408,409および410号
構造材として技術基準を定められる。

小規模建築を中心に鉄骨造からアルミ造に

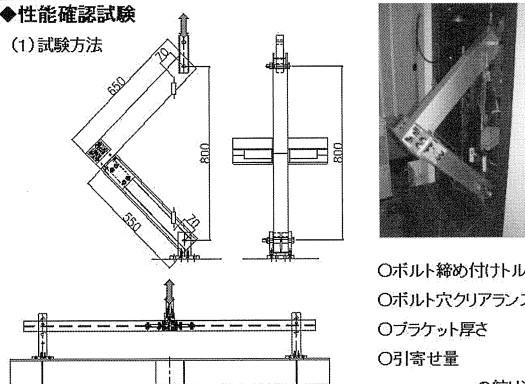


01. 仕上げ材から構造材へ

アルミシステム建材の開発と適用例 三協立山アルミ株式会社

◆性能確認試験

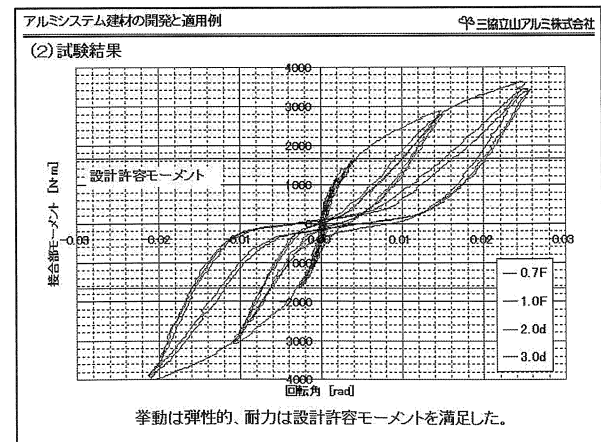
(1) 試験方法



- ボルト締め付(トルク)
- ボルト穴クリアランス
- ブラケット厚さ
- 引寄せ量

の絞り込み

02. 性能確認試験



03. 試験結果

(3) 構造

【特徴1】扱いが容易

- ・使用部材はアルミ型材とボルトのみ
- ・加工は切断と孔あけ加工のみ

【特徴2】部材がスリム

- ・中ボルトによる剛接合の実現

3. 適用例

(1) 片支持通路シェルター

システム建材の柱2本を組み合わせ、その2本の柱頭から梁を張出させ、片支持構造としています。柱見付け寸法 90mm・屋根厚 90mm として、柱スパン 4m・有効幅 2mを確保しています。

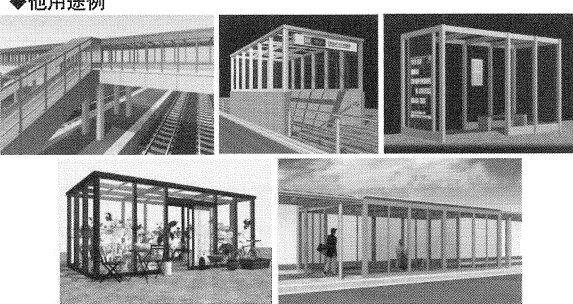
意匠的なこだわりとしては、2本の柱は目板・雨樋も含め 90×455mm にまとめており、見付け寸法は非常にスリムです。90×130mm の部材寸法、屋根四周の形状にこだわり、全体として統一感のあるデザインとしています。

(2) その他製品

本システム建材は、あらゆる都市景観のシーンに対応できるアルミ構造材です。これを一つのツールとして今後とも、環境・景観にやさしいものづくりをコンセプトに様々なニーズにお応えする提案に取り組みまいります。

アルミシステム建材の開発と適用例 三協立山アルミ株式会社

◆他用途例



あらゆる都市景観のシーンに対応できるアルミ構造材
意匠、施工、環境、様々なニーズにお応えできる提案に取り組みます。

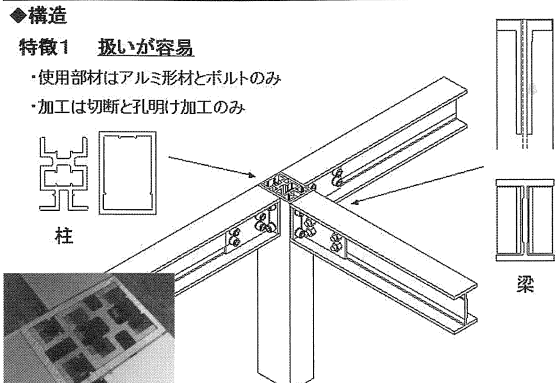
07. その他製品用途例

アルミシステム建材の開発と適用例 三協立山アルミ株式会社

◆構造

特徴1 扱いが容易

- ・使用部材はアルミ型材とボルトのみ
- ・加工は切断と孔明け加工のみ

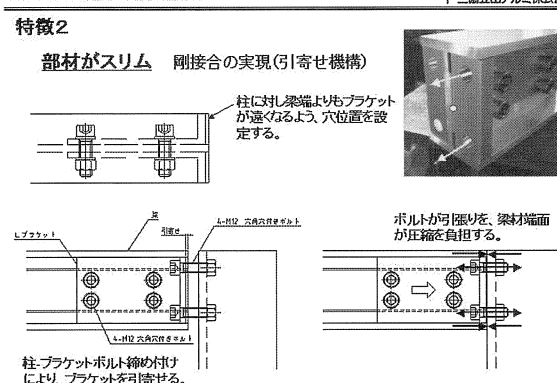


04. 構造：特徴1

アルミシステム建材の開発と適用例 三協立山アルミ株式会社

特徴2

部材がスリム 剛接合の実現(引寄せ機構)



柱に対し梁端よりもブラケットが遠くなるよう、穴位置を設定する。

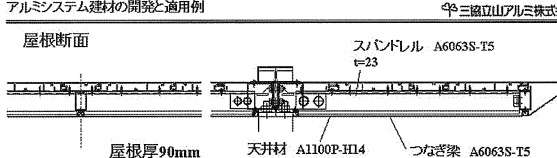
ボルトが引寄せを、梁材端面が圧縮を負担する。

柱・ブラケットボルト締め付けにより、ブラケットを引寄せる。

05. 構造：特徴2

アルミシステム建材の開発と適用例 三協立山アルミ株式会社

屋根断面

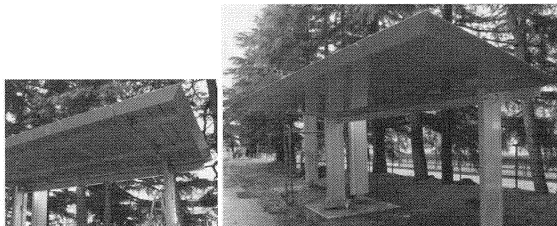


スパンドレル A6063S-T5 t=23

屋根厚90mm

天井材 A1100P-H14 t=2.0

つなぎ梁 A6063S-T5 t=60



06. 片支持通路シェルター

 三協立山アルミ株式会社

担当：山谷 清／パブリックエクステリア部

住所：富山県高岡市早川 70

電話：0766-20-2264

メール：k-yamatani@sthdg.co.jp

URL：http://www.sankyotateyama-al.co.jp/

総評

中野恒明／芝浦工業大学
アプル総合計画事務所



アルミシステム建材の開発と適用例

●優れた構造システムデザインと評価

さすがサッシメーカーの実績の会社ですね。構造システムデザインとしては優れたものだと思います。とりわけアルミ素地を生かした製品で、近年流行りの無彩色系の色の好みの傾向からは、結構受け入れ易いと思います。

●ボルト接合部の露出が気になります

構造システムの宿命から、部材の接合はボルト方式とならざるを得ませんが、その外締めの関係からその部分が露出するため、屋外環境の場合は嫌われることも少なくありません。オプションとしてカバーをシステムデザインに組み込むこともあっても良いのかも知れません。

●樋や照明配管配線をどう納めるか

構造デザインを中心に製品開発が行われていますが、屋根の水を導く排水管、縦樋および横引き管が支柱と梁の接合部に無頓着に露出しているのが気になります。以前は縦樋も支柱の中通しで行われ、地際で排出されていましたが、近年ではメンテナンスを考えると、外配管の露出形式が増えてきています。このシステムでも外配管が採用されているようですが、構造の接合部と排水管の関係がまだしっくりいっていないように見受けられます。

加えて照明配管配線についてですが、このサンプルではよく判りませんが、おそらく夜間の照明も必要となるはずですが、それが地中配管から天井あたりに設置される照明器具までの経路がどこを通るのか、このままいくと無粋にバンドで止められ、露出してしまうのではないかと危惧します。

その設備系のシステムと構造の関係を複合的に改善すべきかと思います。

●スチール柱とのハイブリッド・システムの可能性

アルミ建材メーカーですから、アルミ材に拘られるのは理解できますが、強度面ではスチール柱には敵いません。将来的な可能性ですが、スチール柱とのハイブリッド・システムもデザインの自由度を高められると思います。電触の問題もありますが、これは既に解決法はありますし、スチールの構造材にアルミカバーの組み合わせで、内部に前掲の配管類を納めることも可能となるかも知れません。

今後の改良、発展に期待しています。

会場からの声

●商品のデザイン性

- ・ 開発の主旨は理解できるが、デザインの向上を求める。集合住宅のバルコニー手すりデザインチームと合流してはどうか。
- ・ システム設計は良い。特にバスシェルダーへの適用可能性は高い。但し幅が2mでは狭い。
- ・ モデル設計のデザイン水準が低く、優れたデザイナーとコラボして開発すべき。
- ・ シンプルな形は魅力的。積雪地にも対応できる形として厚み、柱の太さが大きいという印象はある。
- ・ 直線の形状の部材が多く、その角材が目立ちすぎるように思う。
- ・ 会場からの意見もあったが、天井がのっぺらぼな感じで違和感があった。

●素材と施工性

- ・ アルミメーカーらしい素材の特性を生かした設計であった。
- ・ 施工性がいいのが魅力。今後、環境ニーズに取り組んだ製品を考えてみてはどうか。

- ・ 全て部材全体が太くごつい印象がある。アルミ材の場合のチャレンジとしてその技術力は評価できる。特に柱が太くなっているので、鉄骨材とのハイブリット製造による工夫などを今後検討してみてもどうか。

● 今後の課題

- ・ 耐蝕性について環境条件や酸性雨がどの程度できているのかが気になった。
- ・ 軽量材料を構造材とする事は、施工者の施工性に寄与するが、デザイン上ごつく見えない様にする工夫が必要だろう。施工者の視点からは好感が持てるが、長年に渡って使う使用者に何を提供するか明確な視点が欲しい。

『都市景観を演出する アルミ鋳物を屋根材としたシェルターの可能性』

発表者：井上 弘子/SF サイン設計室

コメンテーター：栗原 裕/ユー・プラネット

1. アルミ鋳物を屋根材としたシェルターの可能性

シェルターは、駅前広場を構成する重要な要素です。また、その屋根材は、視覚的に占める面積も大きく、訪れた人に駅やその土地に対するイメージを印象付けるものです。今回の発表では、アルミ鋳物を屋根材として使用しているアルミキャストシェルターをご紹介します。

(1) 製造方法

弊社では、アルミ鋳物の製造方法としてVプロセス鋳造を採用しています。

一般的な砂型鋳造法では、鋳型となる砂を硬化剤などの薬品を用いて固める方法となっています。一方、Vプロセス鋳造では、砂型にフィルムを被せ、砂型を吸引し減圧することで締め固める方法となっています。このようにVプロセス鋳造は、砂を固める際に薬品を使用していないことから、低公害の製法といえます。

また、砂とアルミの湯との間にフィルムがあるため、砂の磨耗が少なく使用済みの砂が半永久的に再利用でき、従来の砂型鋳造と比べ、産業廃棄物が少なく省資源の鋳造方法といえます。

(2) 特徴

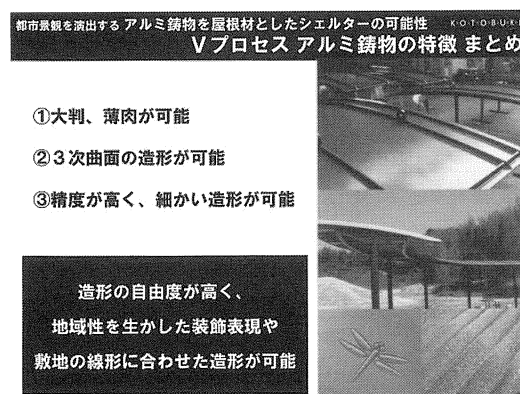
一つ目の特徴として、大判で薄肉の鋳物ができることです。

フィルムを用いた製法のため、湯周りがよいため大判でも薄肉が可能です。標準的な 2.5m 幅のシェルター屋根で、6~8mm 程度の肉厚で鋳造できます。

二つ目は、アルミ鋳物一般の特徴ですが、3次曲面の造形が可能ということです。駅前の連続シェルターなどR状配置する場合に、平板ではなしえない滑らかに連続する曲面をつくりだすことができます。



01. アルミ鋳物シェルターの可能性



02. Vプロセスアルミ鋳物の特徴



03. あやめ池駅の事例

三つ目の特徴は精度が高く、細かい造形が可能ということ。フィルムが鋳型の表面を忠実に転写するため、鋳肌がきれいで、従来の砂型鋳造法と比べ再現性が高く、彫刻のような細やかな表現ができます。

また、壁紙の凹凸感を金属に写しとることができ、ポリカーボネイトや金属パネルでは表現しえない布目のテクスチャーなどにすることもできます。

このような特徴からVプロセス鋳造によるアルミ鋳物は、造形の自由度が非常に高く、地域性を生かした装飾表現、地形に対応した造形などが可能です。

2. 納入事例紹介

(1) あやめ池駅

奈良県内のあやめ池駅前では、駅を始点としたなめらかなカーブを描く3次曲面のアルミキャストシェルターを計画しました。駅に向かう人、駅を降り立った人を緩やかに誘導する導線としての役割も担っています。

シェルターのデザインのポイントは、屋根を吊り構造とすることで歩行者からの見えがかりをすっきりとさせていること、また彩度を抑えた色調として落ち着いた雰囲気としていることです。

(2) 法隆寺駅

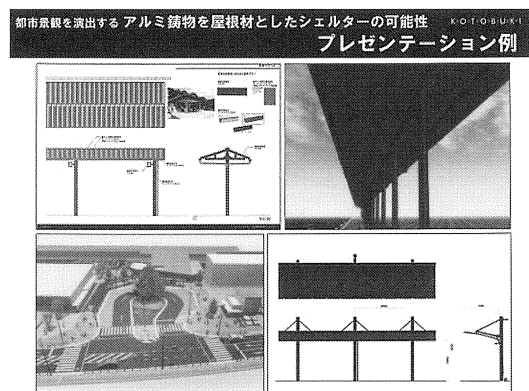
同じく奈良県内の法隆寺駅前では、この地域一帯の歴史的景観に配慮すること、また防火地域であるため防火性能も求められました。そこで、アルミ鋳物の再現性の高さを生かして瓦を模したアルミキャストシェルターを計画しました。

それにより、歴史的な景観を維持しながらも本瓦葺きで起こりうる問題、例えば強風時の瓦の落下の問題や下地材の火災の危険性の問題などを解消した耐久性のあるシェルターを実現しました。

このようにアルミキャストシェルターは場所場所に応じたデザイン性の高い表現ができる製品です。



04. 法隆寺駅の事例



05. プレゼンテーションの事例

(株) コトブキ

担当：数本 浩次

住所：東京都千代田区神田駿河台1-2-1

電話：03-5280-5400

メール：yabumoto_k@kotobuki.co.jp

URL：http://townscape-net.jp

総評

栗原裕／ユー・プラネット



都市景観を演出するアルミ鋳物を屋根材としたシェルターの可能性

●製品の特徴とデザインの可能性

2.5 m²程度までの大判の屋根材が製作でき、厚さも6~8mm、三次曲面も可能など、デザインの多様性に対応できる製品であり、また、アルミ鋳物であることから耐久性、メンテナンスの軽減が期待できる等、今後の利用可能性が広い製品であると言える。

製作過程においても低公害の砂型を用い、砂を再利用できる等、今の時代にマッチした製品であることが伺える。

現代の公共施設においては、デザインだけではなく、環境への配慮、メンテナンスの軽減等が求められており、そういった意味で時代に適合し、かつ、デザインの自由度を高めた優れた製品である。

●実施事例についての感想

「JR大和路線法隆寺駅」の事例に関しては、駅の立地等を考慮した瓦屋根のデザインは理解できる。下地の防火性、瓦の落下危険性の回避のためにアルミ鋳物により瓦を再現したとあるが、できれば本物の瓦を使用してほしかった。法的な問題で木材を使用できないため下地部分を不燃材料とすることは仕方がないとしても、瓦の落下防止は本物の瓦を使用しても可能であると考えられる。本物の瓦の素材感、存在感はアルミ鋳物の瓦とは異なる。素材を大切にすることもデザインの重要な要素である。

「近鉄奈良線あやめ駅」の事例に関しては、屋根の3次曲線が美しく、素材、製法を生かしたデザインとして評価できるが、屋根の軽快感に比べ、柱およびつり材が多少重くなっているのが残念である。全体としての軽快感と曲線美を表現できるデザインの検討をもう少し進めて欲しいと感じた。

「JR嵯峨野線亀岡駅」に関しては、環境に配慮した屋根緑化は時代の流れに沿っており、屋根の厚さを薄くすると言う技術的な検討も評価できるが、なぜこの場所で屋根緑化をする必要があるのかという疑問が残る。デザインは場の要求にあったものとする必要がある。

●今後の課題について

デザインに関しては、施主、設計者等に左右される面が大きく、メーカーが主導でデザインを行うことは難しいことは理解できるが、メーカーとしても空間全体の景観を考慮した製品のデザインを提案するという姿勢を伸ばして欲しい。

景観はいろいろな製品、植栽、舗装材等の要素が集合して形成されるものであり、空間全体を考慮しつつ個々の製品等のデザインは検討されるべきものである。

会場からの声

●商品としての可能性

- ・ オリジナルなシェルター提案の可能性のある良い商材である。ぜひデザイン提案してみたい。
- ・ 曲線的な形状につくることができる点が魅力だ。アルミならではの独自のデザインができる可能性がある。
- ・ すべて特注できるということなので期待したい。薄い平板状にできるという点が良い（十分強度がとれる）。
- ・ シェルターの平面、カーブ部は非常に複雑な曲面になるので、これが解決されているのは素晴らしい。
- ・ Vプロセスアルミ鋳造法によるアルミキャストシェルターの特徴がよく分かるプレゼンだった。

●今後の課題

- ・ アルミ鋳物の鋳型製法はエコで評価できるが、シェルターのデザインの質を高めた方が良い。
- ・ アルミを使うならば屋根材としてのアルミのメリットを打ち出すべきだ。
- ・ 鋳物としては少々重たいと思った。ギリギリの寸法までしぼっていいのではないか。鋳物らしくデザインにも取り組んでほしい。
- ・ 軽い、薄い、やわらかいの3つの要素をうまく活かして、もうすこし自由なデザインがあってもいいと思う。
- ・ アルミ瓦は、もう少し新しい「和」のデザインの開発が必要ではないか。代替素材だけではもったいない。もっと軽い方がいい。

『街の美観を保つ表面処理技術と製品紹介』

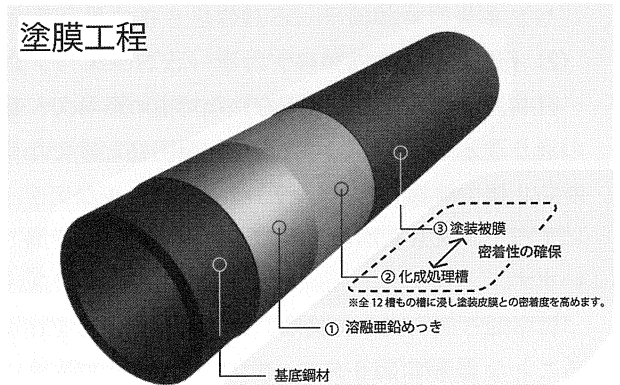
発表者：田邊智哉子／経営企画室 企画チーム

コメンテーター：斉藤浩治／パシフィックコンサルタンツ

1. はじめに

鋼管柱は、表面が外気に触れると錆化が進み変形や変色をおこします。鉄の腐食は景観を崩すだけでなく、鋼管を取り換えるスパンを短くし、環境破壊にもつながってしまいます。当社は、鋼管の腐食を防ぐため塗膜を何層も重ね、鋼管に強く密着させる事で、長持ちする製品を作っています。

塗装工程は、①鋼管を溶融亜鉛めっき処理し、柱の内外面の防食機能を高めます。②化成処理によって表面を均等にならし、めっき面と塗装との密着度を上げます。③塗装をのせます。④最後に焼付乾燥によって硬化を促進させます。下地をしっかりとる事でその上の塗装の魅力を引き出します。

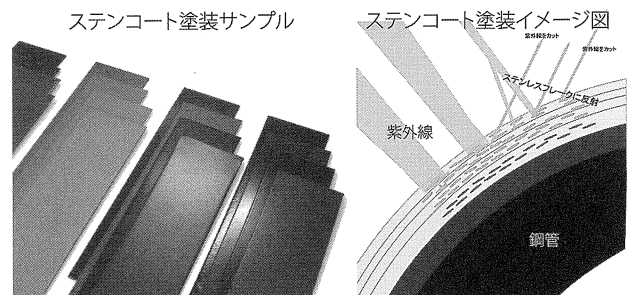


01. 塗膜構造図

2. 表面処理工程

(1) 紫外線を防ぐステンコート塗装

モザイク状に散らされたステンレスフレークが、変色の原因となる紫外線をはねかえす事で鋼管の劣化や色落ちを防ぎます。このステンレスフレークの量は調整できます。

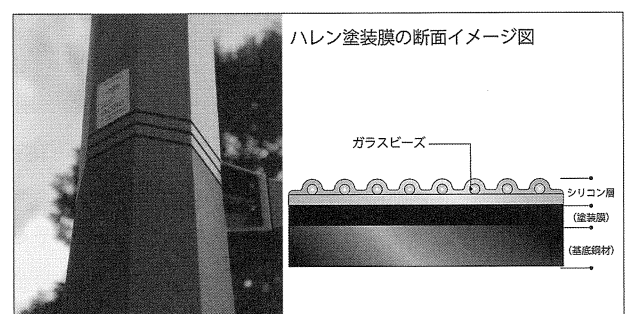


02. ステンコート塗装

(2) 貼紙防止塗装ハレン

シリコンの層に貼紙を剥離させるビーズを混ぜ込んだ塗装です。新商品の「ハレンSS」は、艶消しでもっとも微粒子な塗装です。(03. 左参照)

柱の表面に上塗りする塗装ですが、表面の見た目の変化が少ないことが特徴です。



03. 貼紙防止塗装「ハレン」

(3) 地際防食塗装

この塗装は、犬尿や土に含まれる微電流などにより傷みやすい柱の基部をコーティングする塗装です。地際塗装の上から塗装できるので外観を崩さず、基部を強力に守ります。

3. 実製品紹介

(1) 富山ライトレール

富山市の路面電車「CENTRAM」の架線柱は、架線を強く張るため、引っ張り力に耐える強度が求められました。そのため、強度に耐える鋼管と繊細なプロポーションを表現できるアルミ鋳物を組み合わせました。

二つの異なる素材を許容誤差 1.5mm 高い精度で連結できるところに当社の製作技術が生きています。



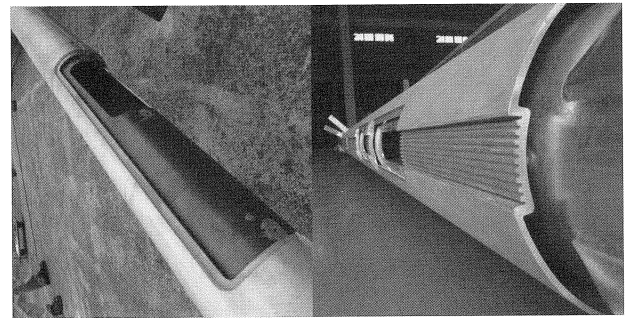
05. 富山都心線(大手モール架線柱 H=8m)

(2) 行幸通り

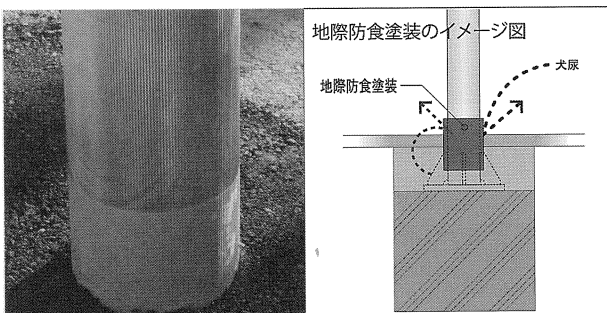
行幸通りは皇居と東京駅をつなぐ道の名称で、皇族の通り道として使われています。照明柱だけでなく横断防止柵や鋳物笠石(ベンチ)などトータルなデザインによって、東京駅前にふさわしい気品と重みを醸しています。

行幸通り照明柱の特長は、長い鋳物の成形を途切れることなく一体で行っている点です。それによりの流れるような曲線美を表現できました。(07. 参照)

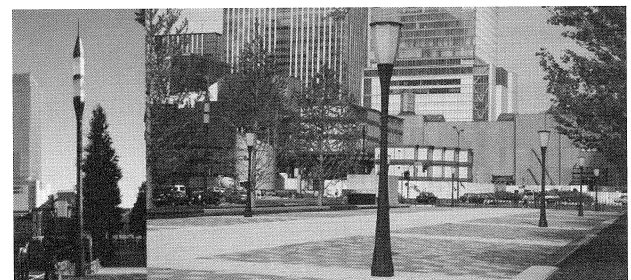
もうひとつの技術的な特長は、照明の下の柱に開けられたスリットです。照明柱に斜めの穴を開ける事で光を通す仕組みを作ることも新しい技術力を要しました。



06. 富山都心線車歩道架線柱断面



04. 地際防食塗装



07. 行幸通り 左：車道照明柱 H=12.66m
右：馬車道照明柱 H=4.21m

 **ヨシモトポール** 株式会社

担当：丸山 浩二

住所：東京都千代田区有楽町1-10-1
(有楽町ビル)

電話：03-3214-1551

メール：maruyama-kouji@ypole.co.jp

URL：http://www.ypole.co.jp/

総評

齊藤浩治／パシフィックコンサルタンツ



都市環境を彩る塗装と製作技術

●常に最新の技術で貢献する姿勢が印象的

今回のヨシモトポールさんの提案は、新しい塗装技術と製造技術の2件であった。常に新しい技術に挑戦する姿勢にとっても好感が持てた。提案については、照明柱や標識柱など、都市部に不可欠な設備を造るための基礎的な技術である塗装技術についてコメントしたい。

これらの設備は、ややもすると形状やデザインなどに目が行き勝ちだが、このような基本的な塗装技術を確実に蓄積していくことが、良い都市環境を形成する「礎」となるものである。

●張り紙防止塗装「ハレン」

ハレンは、張り紙を防止する機能を持たせつつ、従来の塗装にあった光沢感を抑えた「つや消し」風の仕上がりに新しい可能性を感じた。

この塗装は照明柱などを対象としているが、都市景観の中では強く主張しすぎないことが必要であり、光沢を押さえた仕上がりは適切である。

今後、普及させていくためにはコストが高いことが気付きである。更なる改善を重ねてコストの低減にも取り組んで欲しい。

もうひとつは、メンテナンスの問題である。この塗装は傷がついた時に補修（タッチアップ）が難しいと聞いている。照明柱や標識柱などは、自転車などの接触によって、傷がつきやすい環境にあるので、

現場で簡単にタッチアップにより補修できる方法が望まれる。これからのメンテナンスの時代には是非とも必要な技術である。

●色彩選定に関する配慮

塗装色のバリエーションはほぼ無限にあるようだが、その過程はどのようになっているのか気付きである。一般的な色見本によって選定しているようだが、ポールのような製品は、表面の曲率が小さいため、陰影が強調され、平面的な物体とは色の見え方が大きく異なると思われる。平面的な色見本だけではなく、実物に近い形状での検討が望まれる。

今後とも、絶え間ない技術の研鑽を重ねて、より良い都市景観の実現に寄与されることを期待する。

会場からの声

●高い技術力、デザイン性とコスト面の課題

- ・ 高い技術力と洗練された造形、材料の適切な使い方はすばらしいがコストが気になる。
- ・ ステンコートの技術はすばらしく、優れている。また事例の「行幸通り」のポールのデザインも良い。
- ・ 高度な技術と洗練されたデザインが結びつき、重厚かつ上品な作品となったオンリーワンの企業だと思う。
- ・ 地覆塗装の色の差をさらに全体を塗装することによって防ぐとのことだが、二重に塗装することになりコスト増になるのではないか。
- ・ デザイン、塗装技術ともに優れていると思う。「メッキ+塗装」で50年の防触効果があるのは良い。
- ・ 張り紙防止塗装のマット感は素晴らしい。鋳物のロングポール技術も素晴らしい。

●メンテナンス性への期待

- ・ 塗装による環境の調和に技術がどう関わるか。耐久性の向上、メンテナンスフリーに近づけてほしい。
- ・ 塗装は、20年持つとのことだが、メンテナンスが気になった。色のバリエーションも見てみたい。

『U字溝用スリット蓋のバリエーションと応用使用例』

発表者：石川文和 / マーチャンダイジング部
 コメンテーター：白濱 力 / グラフィス環境計画

1. カネソウU字溝用スリット蓋の種類

U字溝用スリット蓋には以下の3種類のタイプがあります。

- ・開口部（スリット）の位置をU字溝の幅に対して、片側に寄せた形状の「ボーダースリット」
- ・U字溝の幅の中心に開口部（スリット）を設けた「センタースリット」
- ・U字溝の幅と開口部（スリット）の幅が同じで小形U字溝用または円形水路用の「バーチカルスリット」

2. 特徴

U字溝用スリット蓋には次のような特徴があります。

- ①信頼性の高い荷重負担構造
- ②スリット幅が実開口で、排水性能を向上
- ③騒音・盗難防止のためのスリットロック構造
- ④蓋の上の通行もスムーズな細目ノンスリップ形状
- ⑤敷地境界間際に設置可能（ボーダースリット）
- ⑥工事費のトータルコスト低減
- ⑦掃除口蓋・集水桝蓋とのスムーズな納まり
- ⑧豊富なバリエーション設定

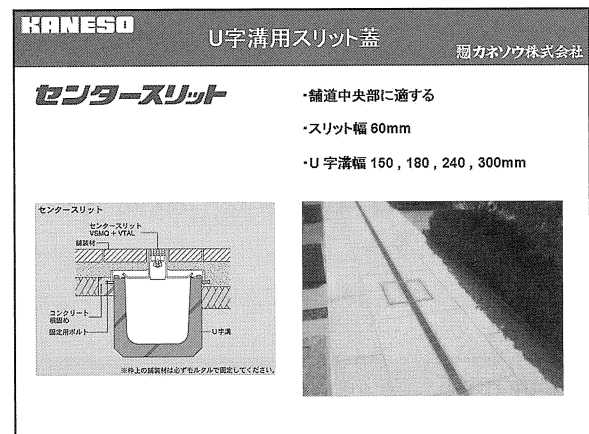
3. 豊富なバリエーション

U字溝用スリット蓋は豊富なバリエーションを取り揃えています。

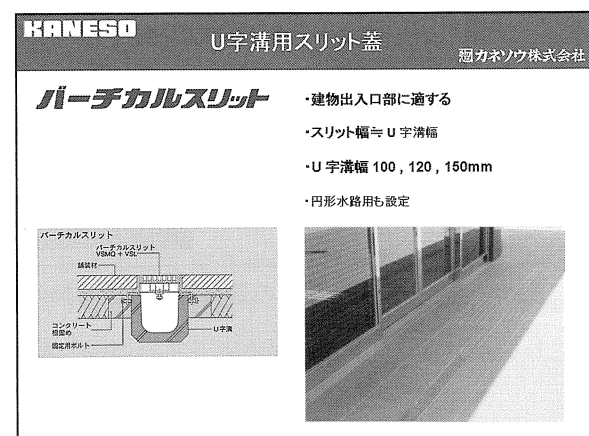
スリットの素材はスチール+溶融亜鉛メッキ、ステンレス、鋳鉄の3種類を設定しています。荷重設定も歩行用、2トン車対応、14トン車対応となっています。また、蓋の種類もグレーチング以外に、タイル充填用蓋、砂利撒き用蓋、通行部用プレートタイプの蓋などを揃えております。



01. ボーダースリット



02. センタースリット



03. バーチカルスリット

4. 舗装空間の景観を崩さない掃除口用蓋

通常のスリット蓋部と同じデザインで、U字溝の開口幅全面を開放できる蓋を設定しています。一定間隔で設置することにより、溝の中のメンテナンスが容易になります。掃除口の蓋をした状態では、蓋が目立たずきれいに納まります。

掃除口用蓋は、ボーダースリット用とセンタースリット用があります。

5. 集水樹用の蓋も同一デザイン

溝の分岐部やエンド部に設ける集水樹用の蓋も各タイプ設定しています。通常のスリット蓋部と同じデザインで、集水樹の開口幅全面を開放できます。集水樹の中のメンテナンスも容易です。

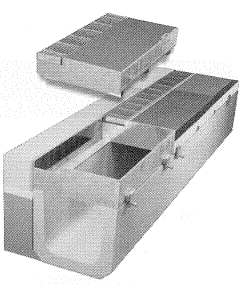
集水樹用蓋は、ボーダースリット用とセンタースリット用があります。

6. 特注対応による納まり例


標準タイプ以外の特注の納まりにも対応ができます。現場打ち側溝への設置、一体型異形コーナーの製作、排水溝となるトラフ一体構造、曲線形状の製作、受枠目地を表面に出さない納まりなど、各現場に応じた仕様で製作できます。

KANESO U字溝用スリット蓋 颯カネソウ株式会社

舗装空間の景観を崩さない掃除口




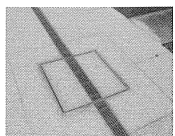
- ・ U字溝の開口幅全面を開放できる蓋です。
- ・ 通常のスリット蓋部と同じ納まりで掃除口部が目立ちません。
- ・ ボーダースリット用とセンタースリット用を設定。
- ・ スリット素材もステンレス・スチール・鋳鉄の3種類を設定。





04. 舗装空間の景観を崩さない掃除口

KANESO U字溝用スリット蓋 颯カネソウ株式会社

溝の分岐部、エンド部の集水樹用蓋

- ・ ボーダースリット用とセンタースリット用を設定。
- ・ 樹内径は300, 450, 500, 600mm
- ・ 適用荷重はT-14、T-2

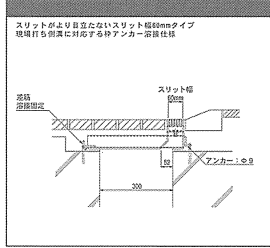
ボーダースリット用
センタースリット用

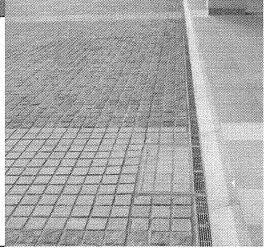
05. 溝の分岐部、エンド部の集水樹用蓋

KANESO U字溝用スリット蓋 颯カネソウ株式会社

ボーダースリット 現場打ち側溝用

スリットがより自然なスリット幅6mmタイプ
現場打ち側溝に対応する特アンカー設置仕様



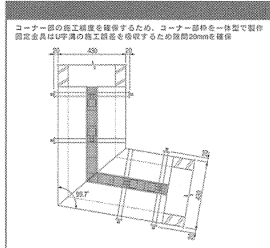


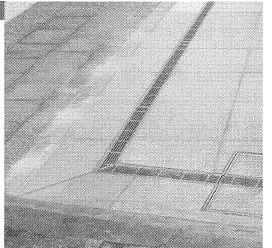
06. ボーダースリット 現場打ち側溝用

KANESO U字溝用スリット蓋 颯カネソウ株式会社

センタースリット 一体型異形コーナー

コーナー部の施工精度を確保するため、コーナー部材を一体型で製作
固定金具はU字溝の施工精度を確保するための強固20mmを確保





07. センタースリット 一体型異形コーナー

颯カネソウ株式会社

担当：石川文和

住所：三重県三重郡朝日町大字繩生 81 番地

電話：059-377-3232

メール：info@kaneso.co.jp

URL：http://www.kaneso.co.jp

総評

白濱 カノグラフィス環境計画



U字溝用スリット蓋及び植樹柵グリエ

●真の日本の道路側溝のスタンダード商品への道

景観材としては以前より望まれていた商品であり、一般道でのL型側溝に替わってほしい。石やタイルを貼り込み、改修時のグレードアップが同時に行えることはメリットである。

また、舗装タイルに良く馴染む点は評価できるが、タイルの重量を考えるとさらなる軽量化が求められる。

一方、一般道路での普及を目指す上で集水柵部でもさまざまなゴミや枯れ葉の落ち込みを考えると、都市の道路上のゴミを濾すフィルターとしての機能と目詰まりを軽減化できる方策が必要となってくる。最終的には人的メンテナンス作業が残るものとして、専用工具が必要でも容易に掃除ができるシステムの提案が望まれてきた。

カネソウの製品は、蓋自体が二重構造となっていることで、ゴミ、枯れ草の收拾を容易にするものと思われる。日常のメンテナンスの軽減化とトータルイニシャルコストと差し引いても、修景、景観商材として普及する事を是非望むところである。

●修景装置として更なる進化に期待をする「あぜ道」商材の提案（都市型商材から田舎修景商材へ）

スリット溝にして集水口を点から線にすることで路面排水の効率化が図られる一方、その汚れやすいラインを二重にすることで、道の際を「新たな植栽

帯」にすることが可能である。舗装された道路のヒビ割れから雑草などが生える事が多々あるが、これをしっかりと制御された美しい「あぜ道」道路の実現ができるのではないだろうか。朽ちた道からデザインされた「あぜ道」へ。

●製品の改良について

U字溝用スリット蓋及び植樹柵グリエは既にスタンダードになった成熟商材である。

景観商材として日本的なこだわりを持ち、製品の完成度が上がってきているが、現場での普及や不具合の改善速度が遅すぎるのが気にかかる。

多岐にわたるシチュエーションでのきめ細かな対応、小石等の目詰まりの改善、蓋のメンテナンスの容易さと軽量化、そしてコストの改善など、まだまだ改良すべき点が多いものと思います。

会場からの声

●技術力、デザイン性

- ・ U字溝用スリットは我が国のスタンダードにしたいくらいすばらしい製品である。
- ・ 敷地境界の仕上げコンビネーションが美しくおさめられそうで好感を持った。ぜひ集合住宅の物件で使ってみたい。
- ・ グレーチングの製品バリエーションが多く紹介されたが、良いデザインとして好感が持てた。
- ・ 非常に安定した商品だ。

●さらなる発展に期待

- ・ 着実に進歩している。目詰まり、ゴミ掃除も追求して欲しい。
- ・ スリットについて、鋳鉄の質感をもっと活かした製品を作ってほしい。鉄板では安っぽいと感じる。
- ・ ボーダースリットのグリル模様（スリットの向き）を多様に変化させられると面白い。
- ・ スリット幅が許容する排水能力はどうか。店舗の前にうまく水を打つしくみを作れないだろうか。

●今後の課題

- ・ 課題としては、コストを相当安くしないと特別なところでしか活用できない。
- ・ マンホール、グレーチングはかなり滑るため、滑り止めのついたグレーチングに期待したい。

『地域の伝統産業技術を活かした環境レンガ開発について』

発表者：仙臺真理

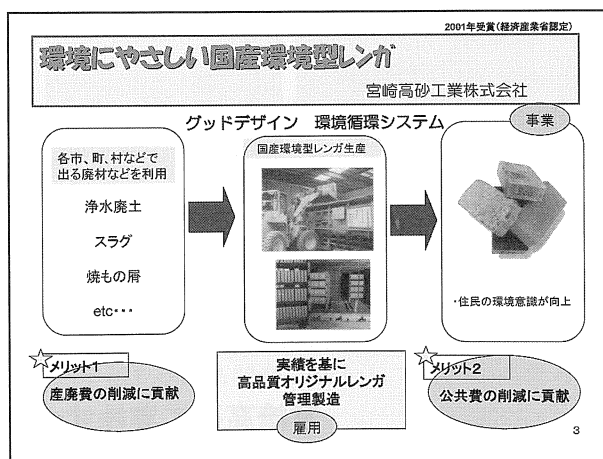
コメンテーター：中村伸之／ランドデザイン

1. 瓦の伝統産業技術で環境を考える取り組み

(1) 地域伝統産業技術を環境に活かす仕組み

地域資源を活かした産業技術は、次世代につなげ地域産業技術資源としての価値を残してきました。しかし経済環境が変化していく中で、地域の伝統産業を次世代につなげる事が困難になっています。このままでは地域資源の存在や、長年にわたって伝えてきた技術資源を知らない世代をつくってしまうため、伝統産業の価値を見直す必要があると考えました。

狭い国土の中で、限りある資源を大切に活用し、伝え続けた産業こそ、地球環境に優しい持続可能な社会をつくるヒントになるのではないかとこの発想で、環境素材の開発に取り組み、「国産環境レンガ」を開発しました。そして各地域で「地域の捨てられている素材と資源を活用した環境レンガで街づくりをする」という提案をしながら伝統産業技術を環境に活かす取り組みをしています。



01. レンガの仕組み

(2) 開発の経緯

宮崎の資源である粘土を有効利用し、安定的な地域雇用を創出する誘致企業として、昭和45年、現在の宮

崎県都城市高城町に進出しました。創業当初から瓦を製造し、九州を市場とし販売していましたが、時代の変化と共に需要が低迷していく中で、現状の瓦製造ラインを活かした新たな分野への進出を考え、平成8年に同じ窯業分野のレンガ製造に着手しました。しかし大手メーカーも多いため、同じ土俵ではなく、新たに環境分野の市場を開拓することで事業化を進めました。それが、「エコレンガ開発」の原点です。

開発当初は商品開発の苦労はもとより、世の中のない市場をつくる苦労が大きく、環境負荷を軽減する提案をひとりひとりに対して説明し、納得し理解くださる方々との縁を増やしてきました。困難な市場開拓の船出から始まったエコレンガ製造という新事業は、過剰投資をする事なく、瓦を製造しながら、レンガを生産するという生産方法であった為、困難な状況をきりぬけられたと考えます。

(3) 恵まれていない環境だからできたレンガ

粘土は、男土、女土と言われ土地ごとに性質が異なります。女土は柔らかく、どのような形にもなじみ、焼きあがりの肌もきめ細やかで美しい瓦をつくるのに適しますが、男土は硬く複雑な形状には向いていません。弊社が原料とする宮崎の土は男土でした。

多くの瓦メーカー、レンガメーカーは粘土製造業者がブレンドした土を使いますが、弊社の原料は成型に向かないため、他メーカーにない配合専用ラインを設け、40年前から土の開発を重ね、現在では他メーカーと同品質の商品をつくるまでに成長しました。この配合ラインがあったからこそ、様々な廃材を原料とするエコレンガの発想を生んだと言えます。

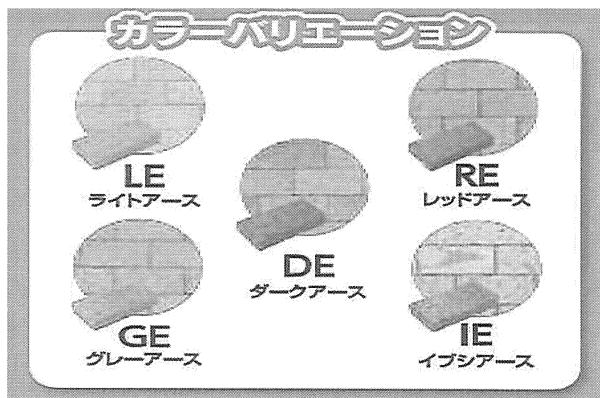
(4) 大量生産ラインからの脱却で生まれた色

高度成長期は大量生産用のトンネルキルンと呼ばれる窯を利用していましたが、先に来る多品種省力時代にはニーズの変化に対応できるプラントでなければ生

き残れないという判断の下、量産体制からいち早く脱却する決断をし、窯業窯専門のプラントメーカーとしての技術を活かして単独窯に変えていきました。

単独窯は一度で大量に焼きあげられないため、コスト面での課題がありましたが、燻す技術を活かし、城や寺などの日本古来の色「燻」をメインにした商品を確立しました。

また、燻までの焼成で還元という技術がありますが、通常は顔料を混ぜてカラーバリエーションを広げている所を、同じ粘土から焼成技術だけで5色に焼きわける技術が生まれました。顔料をつかわない高砂オリジナルのアースカラー技術です。



02. アースカラー

2. 環境レンガについて

(1) 商品コンセプト

- 資源を大切に活用し、捨てられている未利用資源使う事で環境負荷を大幅に軽減。
- 省エネ窯でCO2と燃料費削減。
- 人工顔料を使用しない多様なカラーバリエーション。
- 雨水をきれいなまま地下へもどす。
- ニーズにあった製品開発を短期で行う。

(2) 国産環境型レンガの特徴

- 焼結する際にできる気孔により雨水を保水し蒸散作用によって、表面温度上昇を抑制します。
- 焼成レンガは弱酸性で雨水を安全に大地に還し、生物多様性環境にも適します。
- 標準カラーバリエーションは全て無顔料。伝統産業の技術から生まれた焼成施術による色づけを可能にしました。

- 景観材として使われたレンガの色は、酸性雨でも紫外線でも脱色することなく持続可能な素材です
- 熱伝導が遅く、素足であるいても熱くありません。
- 舗装材としても一般の舗装ブロックや普通レンガより強度に優れ、駐車場、車道にも使用されています。

(3) 施工実績

学校、養護施設、公共住宅、公園、歩道、工場、ショッピングモール、美容室、個人住宅において使われています。さらに、新たな商品として、水質浄化タイル、ヒートアイランド対策用の保水透水軽量タイルについて実験施工中です。

(4) 過去の表彰歴

- 2001年10月
(財)日本産業デザイン振興会グッドデザイン賞表彰
「Ecoレンガの開発」
- 2005年10月 宮崎日日新聞「産業賞」表彰
「保水透水タイルの開発」
- 2009年頑張る中京企業賞受賞



03. 施工状況 歩道

宮崎高砂工業株式会社

担当：仙臺真理

住所：宮崎県都城市山之口町山之口 3388-1

電話：0986-57-2172

メール：syk@alpha.ocn.ne.jp

URL：http://www.takasago-renga.net

総評

中村伸之／ランドデザイン



時を経て風土に同化するレンガ

●時の重みを反映する

レンガ舗装といえば、大きく面で見せるフラットな貼り方が、今は主流のようである。

それに対して、数十年を経たレンガ舗装を見ると、昔の人はいろいろ工夫したのだなあとと思う。小口を見せたり、装飾的なパターンをつくったり、時がたつにつれて角が取れ、微妙なムラができてレンガ本来の味わいが熟成する。50年先100年先の風景を思い浮かべながら、エイジングを組み込んだレンガのデザインをしたいと思う。

●風土と地域へ密着

「土」は風土とは切り離せないものである。「推定600万トンの粘土埋蔵資源を有効活用したい」という県の強い希望から、この地で産業を始めました」とのことであるが、地域に密着した企業姿勢に共感する。史跡復元のために平安時代の製法で瓦を製作したとのことだが、このような製法をブランドイメージをリードする商品開発に活かしてはいかがだろうか。

同社は「コンクリートからエコレンガへ」「地域オリジナルレンガ」というキャッチフレーズで、汚泥、廃土、スラグのリサイクル利用を推進している。長期間の使用に耐える素材と言う意味でも、廃棄物軽減の意義は大きい。プラントの建設やメンテナンスまで行なう高い技術力とクライアントのニーズへの

細やかな対応がそれを支えている。

一方で竣工写真の撮り方やビジュアルなアピールに改善の余地がある。新たな使い方や優良なデザインを自ら提案してゆくことが、これからの課題とお見受けした。

●レンガの未来

私の関心から言えば、シダなどの植物が根付く壁面緑化用レンガ、多孔質で小さな生態系が生まれ生き物と共生するレンガ、植栽地の中に飛び石として使える分厚いレンガなどがあれば良いと思う。

ダイナミックな九州の風土の中で夢のある製品を開発して、レンガのイメージを高めてほしい

人類は有史以前から土を焼き続けてきた。時代のニーズに応えることで、その歴史に新たな一步を刻んでいただきたい。

会場からの声

●高い技術力

- ・ 自然に出る素材の色と模様がとても美しい。使用する場所は限られるが人の近づく場所の表面仕上げとしては面白い。
- ・ 廃材が活用でき、顔料を使用しなくても多様で味わい深い色が出ており、大変優れた製品だと感じた。高い技術力がある。
- ・ 年月を重ねるごとにますます値打ちが出るというのをアピールすればよいと思う。
- ・ 大規模な開発プロジェクトに関わっているが、是非使用したいと思う。代理店を紹介してほしい。

●環境面への貢献

- ・ 国産環境型レンガ、地域循環がうまくいくことを期待する。
- ・ 汚泥を使ったレンガは廃物利用循環型社会に適した商品で評価できる。

●今後の課題

- ・ リサイクル素材だと品質低下が懸念される。
- ・ 安価なタイプが最も使われると考えるが、色のバリエーションが少ないため、特にLE、REの標準色は外構に使いにくい。色の調整が必要だろう。



企業提案

ポスターセッション

『屋外仕様 EB 点字パネルの紹介』

担当者：紺野・小早谷／景観材部門

1. 屋外使用可能な健常者・視覚障害者兼用サインパネル～EB 点字パネルの概要

健常者用の表示パネルの表層に紫外線硬化樹脂インク（点字・触知図表記）を封入し、アーテック独自の EB コーティングを施すことで、点字剥がれの起きにくい安全性の高いサインパネルです。

2. EB 点字パネルの特徴

(1) ユニバーサルデザイン

健常者への視覚情報と、視覚障害者への点字・触知図表記とを視認性を損ねることなく重ねて表現することが出来るので、1枚で二役の役割を果たします。コストダウンにも繋がります。

(2) JIS(日本工業規格)準拠

JIS(日本工業規格)に準拠した製品です。点字の寸法や高さや表現方法など、基準に沿った製品ですので安心して利用できます。

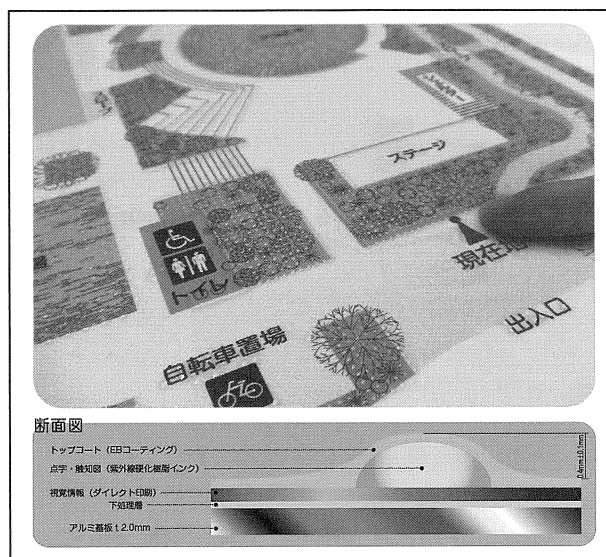
- ・ JIS T0921 「高齢者・障害者配慮設計指針一点字の表示原則及び点字表示方法—公共施設・設備」
- ・ JIS T0922 「高齢者・障害者配慮設計指針—触知案内図の表現内容及び形状並びにその表示方法」

(3) 安全性

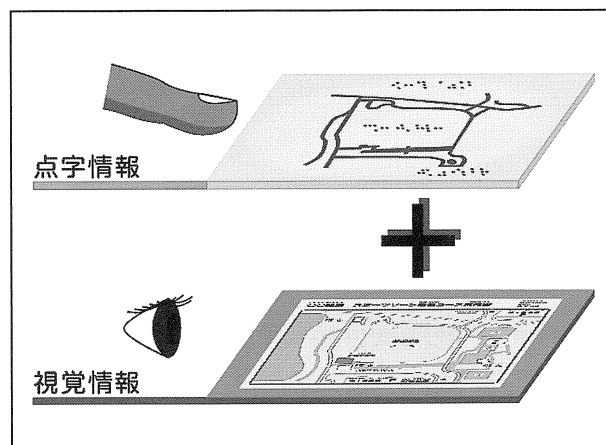
焼成品と違い、樹脂であるため万一の損傷時にも表面が鋭利に粉砕することがありませんので指を怪我をするようなことはありません。基板には、熱放散性に優れたアルミ基板を使用しておりますので、酷暑時に触れても不快感を与えません。

(4) EB パネルの基本性能を踏襲

従来の EB パネルの長所を損なうことなく、油性マジック・スプレーの悪戯、タバコ熱や衝撃にも強いサインパネルです。



01. EB 点字パネルと断面イメージ



02. 点字情報と視覚情報の相関図

(株) アーテック

担当：紺野・小早谷

住所：東京都豊島区東池袋 1-47-3 17 山京ビル 704 号

電話：03-3985-0095

メール：nobu@e-artec.co.jp

URL：http://www.e-artec.co.jp

(株) ユニオン

『都市景観製品 : Hu-land scape LP-1005G』

担当者 : 坂原健二/営業部景観課

1. シンプルで機能的な横断防止柵

(1) 意匠性

現代の景観にマッチするように、ステンレス素材のもつ質感・特性を生かしつつ、細部にまでこだわったシンプルで新しい横断防止柵です。

支柱を最大限にスリム化し、ビームパイプと接合部を面合わせにすることで意匠的な主張を抑え、景観を大切にしたい印象を与えます。

(2) 機能性

シンプルな構造ながら、最大限の機能を発揮できます。ジョイント構造によって、角度・勾配ともに対応可能(～90°)なので、いろいろな場所に設置することが可能となり、従来より容易に施工が行えます。

横断防止柵 LP-1005G (pat. p)

■材質

支柱 : ステンレス鋳物+ステンレス

ビーム : ステンレスパイプ

■仕上 : ヘアライン

■サイズ

支柱 : 65x16 H840

ビーム : φ42.7 H800 (トップ)

■価格

支柱 (1本) ¥49,800

ビームパイプ (2本組/1m当り) ¥11,800

1m当りの目安価格 ¥30,000

□取付ピッチは3mを基準とします



01. Hu-land scape LP-1005G

(株) ユニオン

担当 : 坂原健二

住所 : 東京都江東区白河 2-9-5

電話 : 03-3630-2788

メール : sakahara@artunion.co.jp

URL : <http://www.artunion.co.jp>

『環境に配慮したLED照明器具の開発』

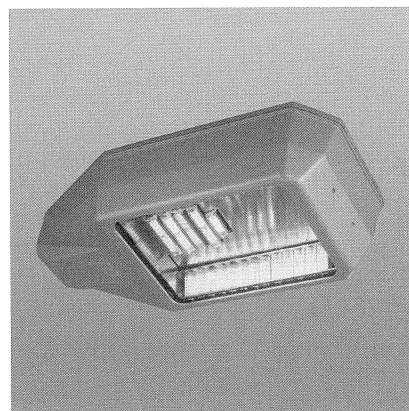
担当者：谷原良寛／東京支店照明営業チーム

1. LED 道路照明

本環境を配慮した LED 道路照明器具を開発しました。照明器具本体はこれまでのものを使用し、中身を LED にしました。ラインナップは水銀ランプ 250W 相当の明るさが LED88W、水銀ランプ 400W 相当の明るさが 169W と半分以下の消費電力で同等の明るさが得られます。また、消費電力が少ない分、CO₂削減にも貢献でき、環境負荷を低減できます。

この LED 道路照明器具は寿命 60,000 時間（光束維持率 70%時）と水銀ランプの 5 倍の寿命を持ち、1 日 10 時間点灯とすると、約 16 年交換不要です。また、寿命がきたら器具内部の LED ユニットのみの交換が可能で、廃棄物を少なくでき、その面でも環境にやさしい照明器具となっております。

道路照明設置基準に準じた明るさを確保でき、これまでと変わらぬ設置間隔で明るさを確保できます。



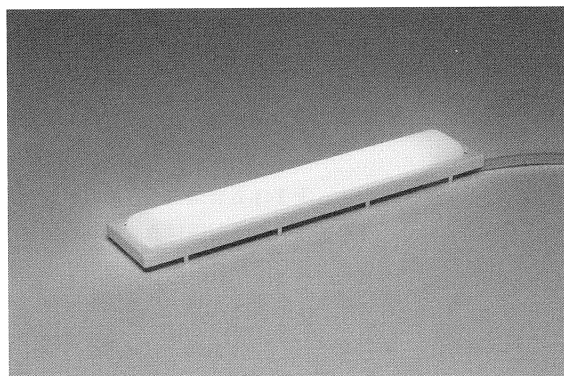
01. LED 道路灯

2. LED ユニバーサルライト

蛍光灯 10W, 20W と同等の明るさを確保できる屋外でも使用できる LED ユニバーサルライトを開発しました。寿命は 40,000 時間とこれまでの蛍光灯の 3 倍以上の寿命を持ち、消費電力は蛍光灯の半分と環境に優しい照明となっております。

形状も薄型で形もシンプルなので、あらゆる用途に使用可能です。

この照明器具の最大の特徴は発光面が面発光しているという点です。LED は直進性がありまぶしいというデメリットをアクリル乳半カバーを用いることでまぶしくない、目に優しい光を放つため、非常に柔らかな光環境を演出できます。



02. LED ユニバーサルライト

(株) MARUWA SHOMEI

担当：谷原

住所：東京都台東区東上野 1-1-12 栗橋ビル

電話：03-5812-0871

メール：yoshihiro.tanihara@maruwa-g.com

URL：http://maruwa-shomei.com



都市に集う人に 憩いの場を 提供する。

街の中でも、公園の中でも、自然の中でも、
人々が集うパブリックスペースは身近なところに存在します。
雨や陽ざしを遮り、道案内をし、ゆったりと腰掛けることができる、
楽しく遊ぶことができる、街に集う人たちに憩いの場を提供すること。
コトブキは、ストリートファニチャー・遊具・サインを通じて
潤いのある街づくりのために貢献します。

株式会社コトブキ

tel:0120-510213 / sales@kotobuki.co.jp

townscape-net.jp

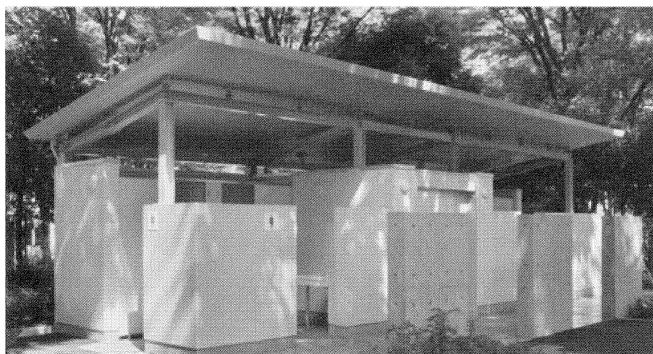
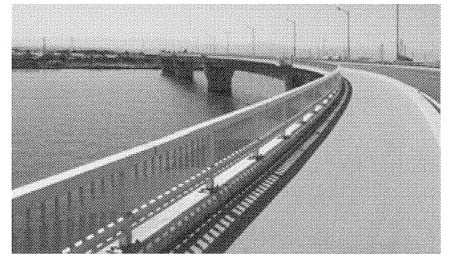
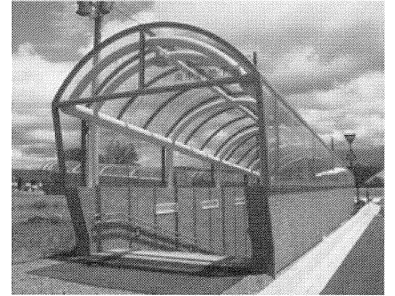
K・O・T・O・B・U・K・I



空の下に自在空間

もっと居心地の良い空間を演出したい、いろんな人のいろんな夢を叶える空間を提案したい。
外に広がる空間をもっとステキに、もっと自在に活用してもらいたい。
私たちは空の下に広がる空間の、さらなる自在性を実現する新しい空間概念の創造と、その具現化に挑んでいきます。
培ってきた高品質の商品提供に加え、より高品位な自在空間を演出し提案する企業へ。

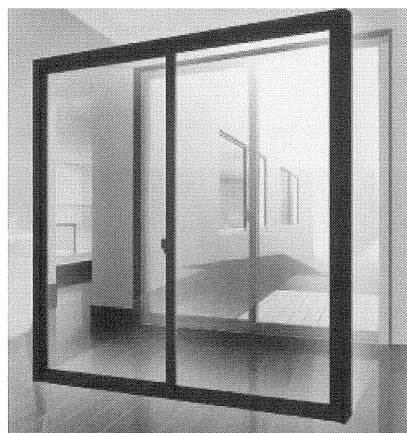
「空の下に自在空間」が私たちの合い言葉です。



住宅エコポイント対象商品

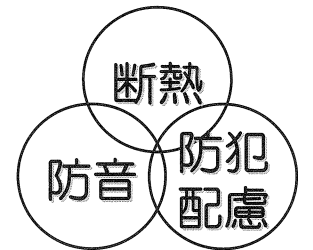
今ある窓につけるだけ。

二重の窓で快適性が大幅にアップ。
プラメイクEは後付できる樹脂内窓です。



後付樹脂内窓

プラメイクE
PLAMAKE
EXCELLENT



 三協立山アルミ株式会社

URL <http://www.sankyotateyama-al.co.jp/>

本社 〒933-8610 富山県高岡市早川70
パブリックエクステリア部
TEL(0766)20-2264 FAX(0766)20-2071

総括

今年度のJUDI都市環境デザイン会議の総会は、東京において開催されました。事業委員会では関東ブロック及び代表幹事会と連携をとりつつ準備を進めてまいりましたが、企業7社の参加を得て「芝浦工業大学豊洲キャンパス」において無事開催することが出来ました。

今回は、昨年同様、企業提案に対してJUDIメンバーのデザイナーや専門家から1名を責任コメンテーターとして指名、会場の声も受けて総評をレポートで報告することと致しました。その成果が『都市環境を形成する施設のパブリックデザイン』として編集された本誌です。

景観法や歴史まちづくり法の施行、観光立国や地域再生に向けての施策も見られる中で質の高い都市環境デザインが求められる一方で、公共事業に対する投資規模や工事コスト縮減に対する社会的要請は非常に高いものがあります。そのような社会経済状況の中、このモニターメッセにはデザイナーとメーカーとの意見交換と交流の場として、環境や景観を形成する質の高い製品を世に送りだす格好の機会を提供することが強く求められております。また、隣国韓国のソウルや海外の都市では“パブリックデザイン”という観点から都市環境デザインやまちづくりを進めようとしており、都市環境や景観を構成している“ヒト・モノ・バ”に関わる、造る・守る技術や多様なデザインの可能性を見ることができます。

事業委員会では、これまでのモニターメッセの履歴を踏まえながら、JUDI20周年記念事業としてこれまで開催されたモニターメッセの“レビュー集”の発刊と“JUDIパブリックデザイン賞”という顕彰事業を実施し、より発展的で実効性のある活動を展開したいと考えております。

最後に、企画から準備・運営・編集と多くの会員やメーカーの方々にご協力頂いたことに深く御礼申し上げるとともに、ここにご報告させていただきます。

平成22年7月19日

横川 昇二／横川環境デザイン事務所（事業委員会委員長）

都市環境デザイン会議 事業委員会

横川 昇二／横川環境デザイン事務所（事業委員長）

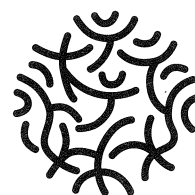
伊藤 登／プランニングネットワーク

須田 武憲／GK設計

茂手木 功／日本都市総合研究所

三輪 強／昭和鉄工

※本冊子とりまとめにあたり、資料作成にご協力頂いた各企業の皆様、また当日の議論のとりまとめを頂いた各コメントーターの皆様にご感謝申し上げます。



あわせな風景
×
デザインJAPAN
JUDI 20th Anniversary

JUDI都市環境デザイン会議・モニターメッセ2010
都市環境を形成する施設のパブリックデザイン

2010年12月発行（非売品）

編集・発行 都市環境デザイン会議 事業委員会
印刷・製本 （有）3・プリントサービス

本記録集に関連する情報や都市環境デザイン会議関連情報を下記のサイトに掲載しています。
<http://www.judi.gr.jp/>（JUDI）
<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gakugei/judi/index.htm>（JUDI関西ブロック）